

# 甲虫コレクションガイド 4 東京農業大学収蔵甲虫類標本

渡辺泰明

〒194-0043 町田市成瀬台 2-26-33

Beetle collection of the Laboratory of Entomology, Tokyo University of Agriculture

Yasuaki WATANABE

## はじめに

日本各地に存在する博物館および資料館などの公益施設や、昆虫関係の大学研究室などの機関に収蔵されている昆虫標本は、時代の変遷に伴う環境変化を示す指標として貴重な資料であることは論をまたない。また、一方では昆虫類の分類・同定を行う上で大きな役割を担っている。昆虫類の種によっては、周知の如く外部形態に個体変異や地域変異が認められるが、これらを検討する際、上記機関に収蔵されている多様な昆虫標本を比較検討することができれば同定作業を進める上で極めて有益である。しかし、このためにはこれらの機関に所蔵されている標本の内容を知ることが必要である。そこで、奥島（2015）の提唱に従って、東京農業大学に収蔵されている昆虫標本の中で、甲虫類のタイプ標本と共に主要なコレクションについて紹介したい。但し、かつて東京農業大学に収蔵されていた標本は、第二次世界大戦時の東京大空襲の折に戦前・戦中を通じて蒐集した全ての標本が消失した。これらの中には澤田玄正博士によって新種として命名・記載された貴重なコガネムシ類のすべてのホロタイプ holotype が含まれている。従って、現在東京農業大学に収蔵されている標本は、すべて戦後に本学昆虫学研究室の教職員と研究室所属の学生諸氏によって採集・蒐集さ

れた昆虫類および多くの同好者諸氏から寄贈を受けた昆虫類に限られている。これらの標本は現在「農の博物館」および「昆虫学研究室併設標本室」に分割収蔵されているが、今回は前者に収蔵されている主要な甲虫コレクションについて紹介し諸賢の参考に供したい。

## 1. タイプ標本

分類学的研究を行う上で、近縁種との比較検討、とりわけ新種の発表に際してはホロタイプとの照合がきわめて重要な行為である。「農の博物館」には、東京農大関係者によって新種発表に際して用いられた貴重な甲虫類のホロタイプが収蔵されているので紹介したい。なお、これらの中で2014年までに命名・発表された種・亜種のホロタイプについては既に三田ら（2015）によって紹介されているので、ここではそれらの発表者および発表年代を記すのみにとどめ、詳細については前記三田らによる報告を参照していただきたい。また、三田らによる報文以後に発表された新種のホロタイプを今回の紹介に含めた。

## 1. ハネカクシ科 Staphylinidae

この科に含まれる347種、3亜種のホロタイプが収蔵されているが、それらの発表者（以下敬

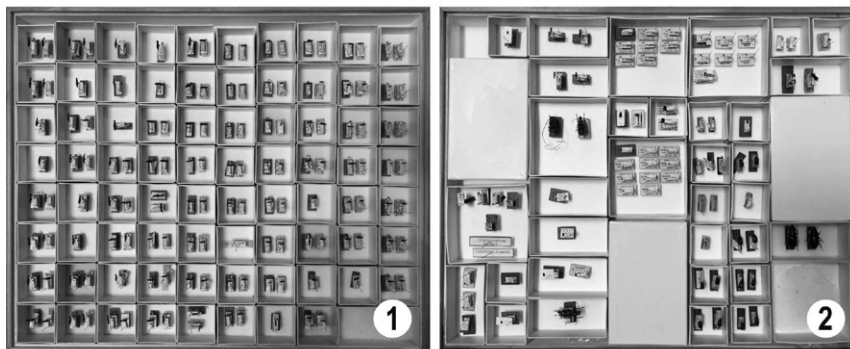


図1-2. タイプ標本。1, ハネカクシ科；2, ハネカクシ科以外の甲虫。

称略) および発表年代は下記の通りである。  
T. Ito (伊藤建夫: 1992), T. Kishimoto (岸本  
年郎: 1997, 2000), S. Naomi & Y. Watanabe  
(直海俊一郎・渡辺泰明: 2015), V. Puthz  
(2011), G. Rougemont (2000), Y. Shibata  
(柴田泰利: 1968), M. Uhlig (1992), Y.  
Watanabe (渡辺泰明: 1961~2015; これら  
の中にはK. Arai (新井浩二), T. Miyake (三宅  
武), Y. Shibata (柴田泰利), T. Shimada (島  
田孝), M. Uhlig, M. Yoshida (吉田正隆) 各  
氏との共著種が含まれている)。なお, 最近  
大野正男氏が保有されていたT. Adachi (安立綱  
光: 1939) に依って命名・記載された台湾産  
*Paederus*属2種のホロタイプが柴田泰利氏経由  
で寄託を受け管理されている。

## 2. クワガタムシ科 Lucanidae

1種, H. Sawada & Y. Watanabe (澤田玄正・渡  
辺泰明: 1960)。

## 3. コガネムシ科 Scarabaeidae

5種, H. Sawada (澤田玄正: 1955), 1種  
(1960)。

## 4. シバンムシ科 Anobiidae

1種, N. Hayashi (林長閑: 1955)。

## 5. カミキリムシ科 Cerambycidae

2種, M. Hasagawa (長谷川道明: 1987)。

## 6. ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae

3種, T. Johraku (常楽武男: 1953); 1種, T.  
Senoh (妹尾俊男: 1982), 6種 (1984), 3種  
(1985), 3種 (1986)。

## II. 各地の昆虫相調査によって採集された甲虫類

### 1. 東京農大奥多摩演習林の甲虫類

上記演習林は東京都下のいわゆる奥多摩地域の  
北部に位置し, 標高 1,452 m の狩倉山を中心とした  
約 120ha の山林地域で, 針葉樹と落葉広葉樹林に  
よる二次林が育成している (渡辺, 1983)。この地  
域の昆虫相調査が 1980 年から約 5 年間に亘って実  
施されたが, その折に採集された多数の甲虫類が  
収蔵されている。

### 2. 中部伊豆諸島 (三宅島・御蔵島) 産甲虫類

東京都教育委員会の主宰による「伊豆諸島文化  
財総合調査」の一環として 1959 年 6 月に三宅島お  
よび御蔵島両島の昆虫相調査が実施された。この  
時の調査によって世界から未知のクワガタムシが  
発見され, 後に Sawada & Watanabe (1960) によつて  
ミクラミヤマクワガタ *Lucanus gamunus* と命名さ  
れたタイプ標本が収蔵されている。これに加えて

1964 年 7 月には「東京農業大学御蔵島動植物調査  
隊」, さらには「御蔵島におけるミクラミヤマクワ  
ガタの生息状況調査」等, 3 回に亘り両島に渡島し,  
これらの機会を通して採集された多数の甲虫類が  
収蔵されている。なお, 御蔵島産昆虫類について  
は澤田・渡辺 (1969) によって, また三宅島産昆  
虫類に関しては渡辺・相馬 (1992) によってそれ  
ぞれ報告され, それらの中にはこれらの島からの  
多数の新記録甲虫類が含まれている。

### 3. 南部伊豆諸島 (八丈島・八丈小島・青ヶ島) 産 甲虫類

前記「中部伊豆諸島文化財調査」の前年の 1958  
年 7 月に「南部伊豆諸島文化財調査」が実施され,  
その折の八丈島, 八丈小島, 青ヶ島での昆虫調査  
を通じて多くの甲虫類が採集された。これらのう  
ち, 八丈小島における調査結果は澤田・渡辺 (1959)  
によって「八丈小島の昆虫相」として発表されて  
いるが, 現在この島は無人島のため渡島は困難で,  
この島の甲虫類は貴重な標本となっている。

### 4. 鳥島産甲虫類

伊豆諸島文化財総合調査の付随調査として 1961  
年 7 月に「鳥島に生息している昆虫類調査」が実  
施された (渡辺, 1963)。短期間の滞在ではあつた  
が, その折に採集された甲虫類の中には思いがけ  
ず後翅が退化したゾウムシが含まれている。その  
後, アホウドリの生息地として有名なこの島は噴  
火の危険回避のため気象観測要員の全員が避難の  
ため離島し, 現在は無人島である。このため, こ  
の島で採集された昆虫類は八丈小島産昆虫類と同  
様に貴重な資料となっている。

### 5. 小笠原諸島 (父島・母島) 産昆虫類

国立科学博物館主催による「伊豆・マリアナ島  
弧の自然史科学総合調査」および当時東京都立大  
学に在職されていた岡田豊日教授の引率による「小  
笠原諸島昆虫類調査プロジェクト」に参加した際  
に父島および母島において昆虫類の採集を行った。  
これらの中には絶滅危惧種を含む貴重な種が含ま  
れているが, ハネカクシ科甲虫類については渡辺  
(1978) によって報告されている。

### 6. 南西諸島産甲虫類

昆虫愛好家にとって興味ある多くの昆虫類が生  
息しているこの地域には, 多くの当昆虫学研究室  
関係者もしばしば採集・調査に赴いた。これらの  
人達の中でも水沢清行氏が精力的に採集した甲虫

類には多くの貴重な種が含まれている。また、石垣島在住の当研究室OBの花谷達郎氏が先島諸島周辺で採集された鯉角類を中心とした多数の甲虫類の中にも貴重な種が含まれている。

### 7. 台湾産甲虫類

澤田玄正教授隊長の他4名の調査隊員によって構成された「東京農業大学台湾昆虫相調査隊」によって、1968年5月初旬から6月下旬に亘って台湾各地で昆虫類の採集・調査が実施された。この調査を通じて筆者、菊池孝彦および高橋慶二郎隊員らによって多くの甲虫類が採集されたが、これらの中には当時入山許可が困難だった玉山や関刀溪等の地域で得た貴重な甲虫類が含まれている。

### 8. ベトナム産甲虫類

「東京農業大学学術フロンティア共同研究推進センター」によって実施された「新農法確立のための生物農薬など新素材開発」の調査のために2005年から2008年に亘って石川忠、岡島賢太郎および渡辺恭平等各調査員によってベトナムで採集された多くの甲虫類が収蔵されている。

### III. 分類群別収蔵標本

歴代の昆虫学研究室員および多くの関係者達によって採集された、多岐にわたる分類群の甲虫類が収蔵されているが、それらの中から比較的まと

まっている二つの分類群を取り上げ紹介する。

#### 1. ハネカクシ科 Staphylinidae

筆者の研究対象であるハネカクシ科甲虫類（ニセマキムシ、アリヅカムシ、デオキノコムシ、コケムシ各亜科を除く）に含まれる膨大な量の個体が、我が国内外の研究者や同好者から寄贈を受け収蔵されている。特に宮森健一、保田信紀両氏からは北海道産種、馬場金太郎、保科英人、西川喜朗、岡本巖、大川秀雄、多比良嘉晃の諸氏、その他寄贈者名は省略させていただくが、昆虫学研究室OBをはじめ多くの人達から寄贈を受けた多数の本州産種、また藤本博文、松本慶一、西川勝、佐藤正昭および吉田正隆氏等の四国在住の方々からは四国産種、小野田繁氏からは九州およびトカラ列島産種、野中俊文、岡島秀治、佐藤陽路樹、島田孝氏等からは先島諸島産種、さらに秋山黄洋、青木淳一、久保田正秀、水沢清行、妹尾俊男、柴田泰利、上野俊一の各氏等によって採集された多数の台湾産種、さらに阿部東、松本慶一、西村正賢、佐藤正孝、相馬州彦各氏等によって東南アジア各地で採集された貴重な個体も収蔵されている。一方、欧州の研究者等から寄贈を受けたドイツ、カナダ、アメリカ産等多数のハネカクシも収蔵されている。

#### 2. コガネムシ科（食葉類）Scarabaeidae (Melolonthinae)

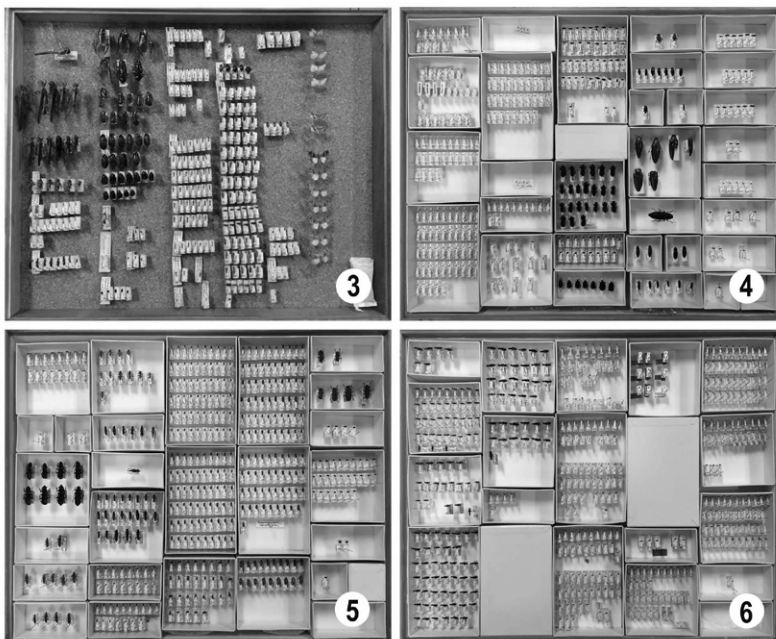


図3-6. 地域別標本。3, 鳥島産昆虫；4, 5, 小笠原諸島産甲虫；6, 台湾産ハネカクシ科。

戦後、神谷一男教授が東京農大から愛知学芸大学（現愛知教育大学）に転出された後、澤田玄正博士が昆虫学研究室を引き継いで、ご自身の研究対象であるコガネムシに関する研究を進められると同時に、昆虫類に関心を持つ多くの学生達の教育・指導に当たられた。この時期を通して日本各地から集められた多数のコガネムシ科甲虫類が収蔵されているが、これらの中には前記タイプ標本の項で紹介したチャイロコガネ属 *Sericania* 6種のタイプ標本が含まれている。

#### IV. 林長閑博士寄贈の甲虫類幼虫の液浸標本

2013年に亡くなられた林長閑博士が、1948年から約60年間に亘って研究発表の際に使用された多数の甲虫類幼虫の液浸標本が、ご遺族のご意向に従って収蔵されている。それらは171個の大型ガラス瓶と多数の小型チューブに分別されダンボール14箱に収められている。

#### V. 展示用標本

世界中に分布している昆虫類の中で、岡島秀治教授の蒐集による一般の人達が興味を持っている大型種や美麗種および特異な形態を呈するコガネムシやクワガタムシ類が収蔵されている。これらは学内で開催される収穫祭行事の一環として公開され、学生達の昆虫類に対する関心を高めている。また、夏季休暇の折には社会教育の一環として東京都内のデパート等でこれらを公開展示し、休暇中の学生や一般社会人が甲虫類の色彩や形態的多様性を理解する一助として利用されている。

#### あとがき

以上、東京農業大学農学部「農の博物館」に収蔵されている甲虫類の中で、多少ともまとまっているコレクションと甲虫類のタイプ標本について紹介した。しかし、これら以外にも昆虫学研究室に所属した歴代の室員や関係者によって寄贈された未整理の甲虫類が産地別、科別にドイツ箱用標本戸棚や平積みされた桐製インロー箱等に収納されている。これらの個体数を合わせれば甲虫類の総数は膨大な数にのぼる（三田ら、2015）。しかも、未整理の標本の中には未記載あるいは我が国から

未記録の貴重な種が含まれていることが予想され、研究者による今後の検討が望まれる。

なお、「農の博物館」は現在建物の老朽化により取り壊されたため、館内に収蔵されていたタイプ標本は「昆虫学研究室併設標本室」に、他の全ての標本は同じキャンパス内の「研修センター」に移転収蔵されている。

#### 謝辞

前述の膨大な標本管理は、現在まで長年に亘って歴代の昆虫学研究室所属の学生諸氏の努力によって整理・維持されてきた。紙面の都合上、これら人々の個々の名前を列記することが出来ないが、改めてこの作業に従事されてきた人達に深甚なる謝意を表する次第である。また、本稿を草するに当たり小島弘昭、石川忠、三田敏治の三博士からは有益な助言を受け、さらに本稿のために関係写真の撮影を煩わせた伊藤直哉昆虫学研究室員に心から御礼申し上げ、「農の博物館」に収蔵されていた甲虫類標本紹介の責を果たす次第である。

#### 引用文献

- Adachi, T., 1939. New staphylinidae from Formosa (Ninth contribution to the knowledge of Staphylinidae of Japan). *Kontyû*, 13: 165-166.
- 三田敏治ら, 2015. 農の博物館に収蔵されている甲虫目担名タイプ. *東京農業大学農学集報*, 60: 50-56.
- 奥島雄一, 2015. 甲虫コレクションガイド1. 倉敷市立自然博物館の甲虫コレクション. *さやばねニューシリーズ*, (18): 6-10.
- 澤田玄正・渡辺泰明, 1959. 八丈小島の昆虫相. *東京農業大学農学集報*, 5: 47-62, 2 pls.
- Sawada, H. & Y. Watanabe, 1960. Description of a new species of lucanid beetle from Mikura Island in the Izu Islands. *J. agric. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku*, 6: 99-102.
- 澤田玄正・渡辺泰明, 1969. 御蔵島の昆虫相. *東京農業大学農学集報*, 14: 1-42, 6 pls.
- 渡辺泰明, 1963. 鳥島の昆虫相. *南鳥島・鳥島の気象累年報および調査報告*, 気象庁: 169-174, 3 pls.
- 渡辺泰明, 1978. 小笠原諸島のハネカクシ相. *国立科学博物館専報*, (11): 131-139.
- 渡辺泰明, 1983. 東京農大奥多摩演習林の地表性昆虫類. *東京農業大学農学集報*, 28: 1-12.
- 渡辺泰明・相馬州彦, 1972. 三宅島の昆虫相. *東京農業大学農学集報*, 17: 1-56, 2 pls.

(2015年11月12日受領, 2016年2月6日受理)